

2025（令和 7）年度
学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

学校法人 京都 YMCA 学園

京都 YMCA 国際福祉専門学校

「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施した自己評価について、学校関係者評価委員会にて委員より意見を徴収した。

◆学校関係者委員

氏 名	所 属
加志 勉	和歌山 YMCA 国際福祉専門学校 校長
山本 孝	フィットネス企画 Q 代表 / 卒業生

◆評価項目

- ①教育理念・目標
- ②学校運営
- ③教育活動
- ④学修成果
- ⑤学生支援
- ⑥教育環境
- ⑦学生の受入れ募集
- ⑧財務
- ⑨法令等の遵守
- ⑩社会貢献・地域貢献

【報告および改善方策等を踏まえた議論のあった項目】

③教育活動

④学修成果

委員より卒業生の進路を把握する方法等を聴取し、今後の方策を講じるための参考とする。卒業生の動向からニーズを汲み取り、特色あるカリキュラム作りなど、今後の持続可能な運営に生かせるよう努めていく。

⑥教育環境

「介護実習支援システム」の導入や「求人票管理システム」の導入を始め、Wi-Fi 環境の整備も進めている。より円滑に学生の学習効果を向上させる環境整備に努めている。

⑦学生の受入れ募集

留学生については、受け入れスキームの確立や日本に長期滞在し働くことを目的とした層の増加に伴い、当面の間は安定的な入学者数を見込んでいる。

今後介護福祉士国家試験の合格が必須となった場合の質の確保が当面の課題である。

入学時点で一定以上の日本語レベルを求めると同時に、日本語科を併せもつ本校の強みを生かし、在学中の能力向上にも更なる方策を講じていく必要がある。

ここ数年日本人学生の募集は難しく、大半が留学生の状況が続いている。

今後のバランス確保も念頭に、特色ある（魅力ある）カリキュラム作りを強化し、学生の受入れにつなげていく。

⑩社会貢献・地域貢献

本校の特色を生かしたグローバルなプログラム（インターンシップ受入れなど）の実施や諸団体と連携した地域ニーズへの呼応（新規事業）などは、今後もさらに展開していく。

◆総評

各評価項目について、教職員間では概ね高評価であった。

介護福祉士国家試験の合格が必須となった場合の対策、バランスよく継続的に学生数を確保していくための特色ある（魅力的な）カリキュラム作りに向け、引き続き協議・検討を重ねていく。

以上